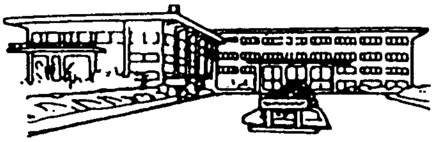


総合資料館だより

2003.10.1　No.137
開館40周年記念号

総合資料館開館40周年にあたって

京都府知事　山　田　啓　二

　京都府立総合資料館は、この度開館40周年を迎えることになりました。
　総合資料館は、京都に関する資料等を総合的に収集し、保存し、展示して皆様の調査研究等に御利用いただくことを目的として、昭和38(1963)年11月15日に開館いたしました。以来、40年の歳月の中で、その機能と役割に変遷はありましたが、現在では、京都の歴史・文化・産業・生活等の諸資料を重点的に収集・保存する「京都に関する専門資料館」として、図書、古文書、行政文書、写真資料、近代文学資料など約50万点に及ぶ多彩な資料を所蔵しております。これらの資料は、日常の閲覧に供するほか、展覧会や出版物として広く公開しており、また、府民講座や古文書解読講座など生涯学習の場としても御利用いただいており、開館以来の延利用者数は800万人を超えております。
　このように総合資料館が着実な発展を遂げてまいりましたのは、ひとえに積極的に御活用いただいた府民の皆様や貴重な資料を御寄贈いただいた多くの方々の御協力のたまものであり、ここに改めて深く感謝申し上げます。
　京都は千年の都として、多くの伝統文化を生み継承しながら、新しい風も取り入れ、世界に誇る独自の文化を築いてまいりました。この文化を後世に引き継ぐとともに、更に発展させていくことは、現在に生きる我々の使命であります。我が国を代表する中世文書で、地方自治体所蔵の古文書群としては唯一、国宝に指定されている「東寺百合文書」をはじめ、昨年、地方自治体の行政文書として初めて重要文化財に指定された「京都府行政文書」など、総合資料館は多数の貴重資料を所蔵しております。これらの貴重な資料の保全及び一層の利用促進を図ることは極めて重要な課題であると考え、「東寺百合文書」の翻刻出版を進めるほか、「京都府行政文書」についてデジタル発信事業に取り組むなど、現在の高度情報化社会に対応した各種施策を推進しているところです。
　今後とも、府民の皆様のお役に立つ資料館として、また、京都の文化発展の一翼を担う資料館として、運営と資料の充実に努力してまいりますので、なお一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。

目次

総合資料館開館40周年にあたって ……………………1
重要文化財指定記念「革嶋家文書展」……………………2
開館40周年記念「総合資料館名品展」 ……………4
総合資料館40年のあゆみ ……………………………………5
府民講座のご案内、第２回古文書解読講座のご案内、友の会事務局から　他 ……………………………………12

重要文化財指定記念　革　嶋　家　文　書　展

－京都近郊の中世武家の歴史が　いま甦る－

会　　期	**平成15年10月１日(水)～10月26日(日)（10月８日(水)・13日(祝)は休館）**
	午前９時～午後４時30分
会　　場	**京都府立総合資料館　２階展示室（入場無料）**
列品解説	**10月４日(土)・11日(土)　午後２時～**
記念講演	**10月21日(火) 午後２時～**
（府民講座）	**仁木　宏氏（大阪市立大学大学院文学研究科助教授）**
	演題「革嶋秀存と細川藤孝（幽斎）－室町幕府の滅亡と山城国西岡地域－」
	※詳細は12頁をご覧ください。

当館が所蔵する革嶋家文書が、本年５月に国の重要文化財に指定されました。これを記念して、皆様方に鑑賞していただき、この文書について理解と関心を深めていただくために展覧会を開催します。

革嶋氏は、現在の京都市西京区川島の地に、鎌倉時代初期、関東から移住したと伝えられています。鎌倉時代の後半になって、革嶋南荘の下司として初めて日本歴史の舞台に登場します。その後、室町幕府御家人として、在地領主として、また織田信長の麾下で戦う武士として、川島村の有力者として、さらに幕末には尊皇の志士として、各時代に様々な姿で登場し、活躍します。

革嶋家文書は、鎌倉時代から大正年間までの約800年間にわたる2,129点の文書群で、革嶋家の重書（重要な文書）にあたる別編文書59点のほか、中世文書137点、近世文書1,354点、近代文書425点、絵図類17点などからなっています。

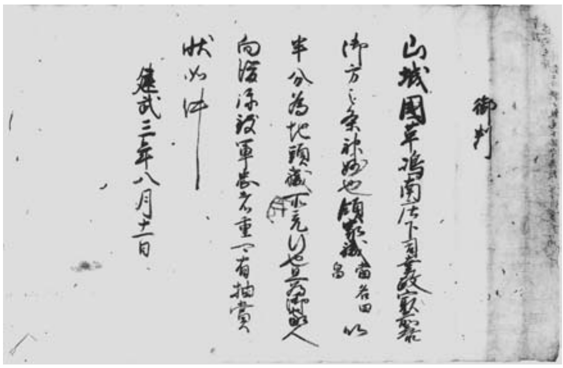
本展では、これらの文書から革嶋氏の活動の様子を、Ⅰ「鎌倉時代の文書」、Ⅱ「南北朝・室町時代の文書」、Ⅲ「戦国時代の文書」、Ⅳ「江戸時代の文書」、Ⅴ「幕末・明治の文書」に区分けして、主だったものを編年順に展示しています。

以下、展示品のうちいくつかをご紹介します。

写真１は、正和元(1312)年11月13日に革嶋南荘の本家である近衛家平が、亀鶴丸（革嶋憲安）を同荘の下司職に任命するよう領家である紀頼職に命じたもので、革嶋氏の日本歴史へのデビューとなる文書です。下司は職務として、現地で荘園経営を行い、決められた額の年貢や公事物等を荘民から徴収し、領主のもとへ納めました。革嶋氏はこの下司職を相続し、戦国時代まで保持しました。

▲写真１　山城国革嶋南荘本家（近衛家平）御教書

写真２は、足利尊氏の軍勢催促に応じて参陣した革嶋幸政にたいして、建武３(1336)年８月11日、恩賞として近衛家が有していた革嶋南荘の支配の半分を地頭職として宛行とともに、御家人にすることを約束した文書です。この時期、幸政と同様の処遇を受けた者は京都近郊で４人が確認できます。尊氏は山城周辺で基盤を作る必要があり、山城の在地領主を繋ぎ止めておくためだったと考えられます。



▲写真２　足利尊氏感状案

なお、この文書案の裏には、幕府奉行人飯尾(いのお)為頼(ためより)の花押が記されています。これは、明応元(1492)年頃、革嶋氏が訴訟のためにこの文書の正文を幕府に提出しますが、預かった奉行人飯尾為脩(ためひろ)が紛失したため、子息の為頼が案文裏に花押を書き、正文の代わりとして革嶋氏に返却したためです。その時の書状が、写真３です。

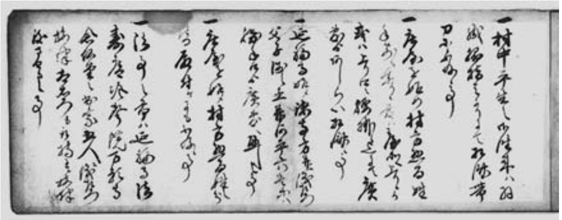
▲写真３　飯尾為頼書状

写真４は、元亀４(1573)年３月９日、細川藤孝(ふじたか)が革嶋秀存(ひであり)に対し、その忠節を讃え、「本意」を遂げたときは「馳走」を忘れないと誓ったものです。この文書の２日前の７日には、足利義昭は織田信長の差し出した人質を殺害しており、両者の対立は必至となっています。ここでの「本意」とは義昭と袂を分かち、信長に味方することであったと考えられます。藤孝の岐路を示す文書と位置付けられるものです。

▲写真４　細川藤孝請文

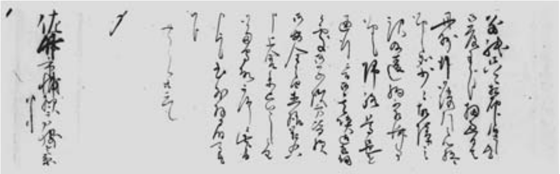
写真５は、明和３(1766)年２月、儒学者で大坂の私塾である懐徳堂(かいとくどう)学主として有名な中井竹山(ちくざん)が、革嶋家の日常あるべき姿を26か条にして、当主の革嶋文蔚(ふみしげ)に記し置いたものです。因みに、第１条は、平素の往来は羽織脇差だけで、帯刀は不要となっています。この文書では、革嶋家の格式を保ちつつ、倹約により家計を立て直そうとする竹山の一貫した姿勢が伺えます。

なお、竹山の妻順は文蔚の姉で、竹山は文蔚の義兄に当たります。



▲写真５　革嶋家年中家事之覚

写真６は、幕末に尊攘の志士として活躍した薩摩藩の高崎左京（正風）が、４月23日付で革嶋有尚(ありひさ)に宛てた書状です。文意は、「有尚と一緒に丹州に行く約束になっていたが、違約して済まないことでした。序でながら帰路（山陰道）に面しているあなたの宅に寄りましたところ、御子様をはじめ皆様はお元気でした。只今の丹州での有様については、お会いしたときに申し上げます。」と言うものです。



▲写真６　高崎左京（正風）書状

年記はありませんが、有尚は慶応元(1865)年６月、新撰組の探索を受け但馬国豊岡に逃れ、翌年、京都に立ち戻ります。以後２年間、有尚は左京らの援助により、潜伏生活を送りますが、おそらくこの時期のものと推測されます。このように、有尚は自らが尊攘運動に参加するとともに、多くの志士と親交を持ちました。

なお、宛名人の「佐竹市輔」は有尚の志士としての変名です。

開館40周年記念　総合資料館名品展

会　　期	平成15年11月８日(土)～12月７日(日)　(11月12日(水)、24日(祝)は休館) 午前９時～午後４時30分
会　　場	京都府立総合資料館　２階展示室（入場無料）
列品解説	11月13日(木)　午後２時～
記念講演 （府民講座）	40周年記念連続講座「京の遊楽」 ※詳細は12頁をご覧ください。

京都府立総合資料館は、この11月15日で開館40周年を迎えます。

これを記念して、約50万点に及ぶ所蔵資料や寄託いただいている資料の中から選りすぐった約80点を展示する名品展を開催いたします。会期中に開催する40周年記念連続講座とあわせ、資料館の誇る貴重資料の数々をこの機会に是非ご覧ください。

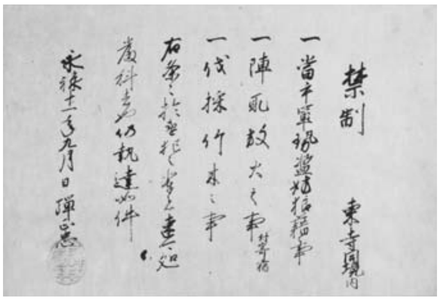
◆図書資料

資料的価値の高い和漢の古典籍である「貴重書」の中から「華頂要略」などを展示するほか、連続講座のテーマである公園、名所図会、写真、歌舞伎に関連する多彩な資料を展示します。

▲第四回内国博覧会平安神社大極殿之図

◆古文書

国宝「東寺百合文書」、下橋家資料、田辺家文書、稲葉神社所蔵文書(寄託)などのうち、足利尊氏、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、春日局、伊藤博文等、皆さんがよくご存じの歴史上の人物にかかわる文書を展示します。



▲織田信長禁制（東寺百合文書）

◆行政文書

昨年、重要文化財に指定された文書の中から、円山公園や園部公園など公園に関する資料を展示します。

▲京都府庁文書「各公園一件綴」

◆写真資料

黒川翠山撮影の写真等を展示します。

◆近代文学資料

明治から昭和にかけて活躍した実業家小林政治氏（号・天眠）が、与謝野寛・晶子夫妻や多くの文学者等と親交を深める中で蓄積してきた資料群が「天眠文庫」資料です。その中から与謝野晶子の「紺紙金泥和歌百首」や自筆の油絵等を展示します。

◆美術・工芸資料

資料館が所蔵し、京都文化博物館に管理委託している美術・工芸資料の中から、日本画、染色、陶芸、漆芸、金工の作品を展示します。日本画は「京の百景」から３点を、染色は近・現代の代表的作家の作品を、陶芸は江戸時代の古清水から昭和にいたる作品を、漆芸、金工もそれぞれ代表的な作家の作品を展示します。

▲尾形乾山「楼閣山水絵四方皿」

総合資料館40年のあゆみ

◇昭和38年

10月　京都府立総合資料館条例が施行される

「京都に関する資料等総合的に収集し、保存し、展示して調査研究等一般の利用に供するため、京都府立総合資料館を設置する」と定めた京都府立総合資料館条例を制定・施行。

11月　京都府立総合資料館開館

11月15日に開館式並びに祝賀式を挙行。翌16日から図書閲覧業務を開始するとともに、開館記念「風俗変遷展」を開催。

▲開館当初の総合資料館

◇昭和39年

２月　文献資料の複写業務を開始

当初は、拡散式複写機とジアゾ式複写機を設置。39年度にマイクロフィルム撮影機、40年度に電子式複写機、さらに平成４年４月にはカラー複写機とセルフコピー機を導入。

11月「京都府立総合資料館友の会」発足

総合資料館の事業普及に寄与するとともに、会員の教養向上を図ることを目的に発足。館展覧会の観覧・解説、名所旧跡・類縁機関等の見学会、現地講座などを実施。昭和40年１月から会報を発行し、昭和45年11月の13号を最終に、「資料館だより」に発展。現在の事務局は庶務課内。

◇昭和40年

４月　京都府開庁100年を記念して、京都府百年史の編さん事業を開始

慶応４年閏４月29日開庁以来の京都府100年の歩みを明らかにし、京都府の理解と調査研究に役立つ資料の編さんに着手し、昭和47年度に終了。『京都府百年の年表』（全10冊）、『京都府百年の資料』（全９冊）、『京都府統計史料集』（全４冊）、『京都府市町村合併史』などを刊行。

◇昭和41年

６月　民謡調査を開始

府内各地に受け継がれてきた民謡を、伝承事情とともに録音テープに収録する事業を開始し、昭和57年度まで実施。また採録民謡の譜面化や文字化を図り、一部を『京都府の民謡』として昭和47年度に刊行。収録曲の総数は、1,499曲、採譜曲は601曲。

◇昭和42年

10月　東寺百合文書の整理・補修を開始

京都府は文化財保護の目的で、昭和42年３月に東寺百合文書を購入し、同年８月に当館所蔵資料となった。10月から仮目録・編年カード・花押カードの作成に着手するとともに、破損が著しく整理が困難な文書の第１次補修を開始。

▲国宝「東寺百合文書」

◇昭和43年

３月『京都府資料所在目録』を刊行

京都府図書館協会と共同で、昭和40年度から編集を開始。京都府内の図書館・府外の主

要図書館、個人が所蔵する京都に関する文献資料を調査し、8,436タイトルを収録。

11月　昔話の現地収録に着手

京都府に伝わる昔話の調査に着手。伊根町(丹後)、和知町(丹波)、和束町(山城)を対象地に選定し、口頭伝承の把握に努めた。採集話数の合計は1,744話に達し、調査結果は各地ごとの報告書にまとめて刊行。

◇昭和44年

７月　『新着図書案内』を刊行

毎月新収の主要な図書を紹介するため発行。その後、『資料収集月報』、『収集資料案内』と改題し、現在は『総合資料館だより』の『最近の収集資料から』に継承。

◇昭和45年

４月　「東寺百合文書展」を開催

東寺百合文書の整理状況を中間報告する目的で開催。この展覧会に出品した文書を『図録東寺百合文書』として同年12月に刊行。

８月　古文書業務を開始

東寺百合文書の整理・補修を進めるとともに、近世文書などの整理・保存業務を開始。

８月　「古文書講習会」を開始

「東寺百合文書講習会」の名称で古文書に関する講習会を開催。その後、昭和48年の第４回からは「古文書講習会」と改称して毎年１回、平成14年３月の第31回まで開催。

９月　館蔵品陳列場開設

館蔵品を陳列し公開する目的で、第１学習室を転用して開設。昭和48年４月に館蔵品常設展示場、昭和63年４月に館蔵品展示場、その後、現在の展示室へと名称変更。

12月　資料の寄託制度を開始

京都に関する資料を保存するとともに、府民・研究者に提供する目的で開始。現在は、古文書、美術工芸資料など合計38件、17,723点が寄託されている。

◇昭和46年

１月　『資料館だより』創刊

資料館業務の広報のため、友の会と共同で刊行。昭和47年９月の第５号から『総合資料館だより』に名称変更。現在、No.137まで刊行。

▲「資料館だより」No.1

３月　『京都府関係雑誌論文目録』を刊行

各種雑誌に掲載された京都に関する論文12,529点を収録し、主題別に配列した目録。

３月　『京都府立総合資料館貴重書目録』を刊行

当館所蔵の貴重書として特別に取扱っている善本・稀書575点を紹介した目録。なお、現在の貴重書の点数は600点。

６月　新聞マイクロフィルム版等の閲覧・複写業務を開始

前年度から京都新聞社の協力により進めていた『日出新聞』、『京都新聞』のマイクロフィルム版作成に伴い、マイクロリーダー・プリンターを設置し、閲覧・複写業務を開始。

７月　第２収蔵庫完成

館蔵資料の増加に対応して民俗資料専用の第２収蔵庫を建設。

７月　『公開特許公報』『公開実用新案公報』の閲覧業務を開始

特許の公開公報制度の実施に伴い、これら資料の受入・閲覧業務を開始。

◇昭和47年

３月　『資料館紀要』創刊

資料館職員が、日常業務を通じて研究・調査した事柄を発表し、各分野の研究に役立てるため刊行。平成15年３月で第31号となる。

６月　行政文書の公開を開始

京都府庁に保存されてきた明治元年から昭和20年までの行政文書を移管して、学術等調査研究の資料として公開。

◇昭和48年

３月　『行政文書簿冊総目録』を刊行

明治元年から昭和20年までの京都府庁文書

約12,000冊、その他の行政文書約1,000冊、計約13,000冊を収録した目録を刊行。

３月　第３収蔵庫完成

館蔵資料の増加に対応して、美術工芸・歴史・古文書資料を収容する本格的収蔵庫を建設。

11月　開館10周年記念事業実施

11月15日に開館10周年・新収蔵庫竣工記念式典を開催。「京の百景展」、「京都近代工芸秀作展」などの記念展示や、『写真集京都府民の暮らし百年』などの記念出版を行った。

12月　東寺観智院金剛蔵聖教の調査を開始

東寺観智院金剛蔵に伝えられた聖教などの調査を開始。文化庁の補助事業により、京都府教育委員会の委託を受けて昭和61年３月まで実施したもので、その成果は『東寺観智院金剛蔵聖教目録』として、京都府教育委員会から全22冊を刊行。

◇昭和49年

３月　『逐次刊行物目録』を刊行

開館以来10年間に蓄積した雑誌・新聞・年報類8,917タイトルを主題別に収録した目録。

４月　有形民俗資料調査に着手

府内各地における民具の使用実態と分布、継承保存の現状などを記録するための調査に着手。調査結果は『京都府の民具』として５冊刊行。

８月　教科書を収集

京都府教育研究所から、戦後の教科書約7,000点の移管を受けた。

◇昭和51年

１月　「京の百景」を受入れ

京都府は、京都の自然・史跡・伝統的な風俗行事を日本画手法により描き後世に遺すため、昭和46年度から「京の百景絵画作成事業」に着手し、２年の歳月を経て完成。昭和51年１月に当館所蔵資料となった。

３月　『東寺百合文書目録』の刊行を開始

昭和48年度で東寺百合文書の仮目録作成を終了し、昭和49年度から函別編年目録の作成に入ったが、この成果を昭和54年度までに全５冊を刊行。

10月　視覚障害者・身体障害者のため、施設の整備に着手

玄関スロープの設置、車椅子の配備、便所の改造等施設の整備を行った。

◇昭和52年

４月　古文書の公開を開始

近世文書などを学術研究資料として一般に公開。

10月　古文書所在情報調査を開始

府内の古文書の所蔵状況の概略を把握するため、昭和55年度にかけて各市町村から情報の提供を受けた。

◇昭和53年

３月　府内市町村行政文書の保存状況調査を開始

府内行政文書の保存・収集を図るため、市町村に保存されている行政文書、特に町村合併以前の旧町村役場文書について、その保存状況の調査を開始。

◇昭和55年

１月　東寺百合文書の公開を開始

東寺百合文書は、昭和42年10月から整理・補修を開始し、昭和51年３月から刊行してきた『東寺百合文書目録』の完結をもって整理を終え、公開を開始。

４月　東寺百合文書のマイクロ化事業を開始

東寺百合文書の史料的価値及び文化財としての重要性に鑑み、利用による破損等を防ぐため、マイクロ化を進め、昭和56年７月から写真版の閲覧を開始。

６月　東寺百合文書が重要文化財に指定される

◇昭和56年

４月　近世文書マイクロ写真版の閲覧を開始

マイクロフィルム収集した近世文書のうち、写真版ができたものを逐次利用に供することにした。

６月　「東寺観智院伝来文書典籍類」が重要文化財に指定される

東寺百合文書と同時に館蔵となったが、伝来経過から別に指定された。

９月　第１回「古文書教室」を開催

古文書に関する解説・解読及び古文書相談などを行うため、古文書教室を開始。毎月第２木曜日に開催し、平成14年２月の終了までに215回開催。

◇昭和57年

３月　『逐次刊行物目録』（改訂版）を刊行

旧版(昭49．３刊)発行後の増加資料を含めて、14,049タイトルを50音順に配列。

４月　古文書センター推進事集に着手

京都府内の古代から近代までの古文書と古文書に関する情報を収集・整理し、府民・研究者の利用に供する目的で着手。

７月　日曜開館を実施

大閲覧室、軽読書室、学習室、文書閲覧室の日曜日開室を実施。なお、毎月20日を休室日とした。

▲現在の図書閲覧室

◇昭和58年

４月　東寺百合文書の第２次修理を開始

東寺百合文書の重要文化財指定に伴い、第２次修理事業を開始し、平成元年３月に完了。

５月　京都府行政情報資料センターを開設

府の行政情報資料を広く府民に提供するため、最新の資料を揃えて閲覧に供するとともに、資料についての相談並びに複写サービスに応じた。

10月　開館20周年を迎える

開館20周年を記念して、10月14日に記念式典、翌15日に記念講演会を開催。「館蔵名品展」、「洛中洛外図の世界展」などの記念展示や、『京都府資料目録』などの記念出版を行った。

◇昭和59年

３月　『京都府資料目録』を刊行

『京都府資料所在目録』(昭和43年３月刊行)の改定版として、当館所蔵資料及び府内主要大学・図書館所蔵資料計18,701タイトルを収録。

４月　館蔵資料の「革嶋家文書」及び「袈裟襷（けさだすき）銅鐸」が京都府指定文化財に指定される

７月　第１回東寺百合文書展(テーマ別)を開催

テーマ別の東寺百合文書展の第１回を、「中世の京都」と題して開催。以後、ほぼ毎年開催し、平成14年11月で第18回となった。

９月　「天眠文庫」資料の寄贈を受ける

故小林政治（号・天眠）氏が明治から昭和初期を通じて与謝野寛・晶子夫妻など多くの文学者から受け取った色紙、短冊、書簡など近代文学の貴重な資料である「天眠文庫」資料557点をご遺族のご厚意により、寄贈受入。

◇昭和60年

５月　市町村図書館等を窓口とする館蔵図書の複写受付業務を開始

府内市町村図書館等に複写申込用紙を備え付け、郵便による館蔵図書の複写受付業務を開始。

◇昭和61年

７月　国立国会図書館所蔵図書閲覧利用サービスを開始

国立国会図書館が実施している図書館間貸出制度に加入し、館利用者からの申請により、国立国会図書館から図書を取り寄せ、当館で閲覧利用できるようになった。

◇昭和62年

３月　『行政文書簿冊総目録２』を刊行

昭和48年３月に刊行した『行政文書簿冊総目録(明治元年～昭和20年)』の続刊として第２集(昭和21年～30年)を刊行。

５月　「古文書相談」を開始

古文書の内容や解読について、府民の方々からの相談に応じる古文書相談を開始。平成15年３月で160回となった。

◇昭和63年

４月　館の美術工芸・歴史民俗資料等の管理を財団法人京都文化財団に委託

昭和63年10月に開館する京都府京都文化博物館の業務確定のため、美術工芸・歴史民俗資料等の管理を財団法人京都文化財団に委託。

４月　ブック・ディテクション・システム導入

資料管理の万全を図るため、ブック・ディテクション・システム（図書持出し防止装置）

を導入。

10月　府政情報コーナー設置

京都府情報公開条例の施行に伴い、当館に府政情報コーナーを設け、情報提供窓口の業務を開始。なお、行政情報資料センターは廃止した。

10月　大展示室を廃止

京都府京都文化博物館の開館と展示業務の委託に伴い、開館以来、企画展等を行ってきた大展示室を廃止。

◇平成元年

４月　貴重書マイクロフィルム作成事業を開始

平成６年度までに104点、857冊をマイクロ化し、複製本を作成。

４月　収蔵施設の整備を実施

収蔵施設の不足に対応するため、廃止した大展示室を書庫、文書庫等に改修。

▲書庫

10月　第１回「文化講座」を開催

友の会との共催で毎年１回、平成12年までに12回開催。

◇平成２年

10月　70万コマの古文書フィルムを公開

昭和57年度から進めてきた「古文書センター推進事業」により、個人、寺院、神社など民間所有の文書を撮影したマイクロフィルム（70万コマ）の公開を開始。

◇平成３年

５月　明治期京都府庁文書(永年文書)緊急補修事業開始

明治期の京都府庁文書のうち特に破損・虫損の著しい簿冊について、明治元年から15年までの分の補修を５か年計画で実施。

◇平成４年

１月　故吉田光邦京都大学名誉教授所蔵図書等の寄贈を受ける

故吉田光邦京都大学名誉教授(元京都府京都文化博物館長)収集の図書・雑誌・パンフレット等約33,000冊並びに考古・工芸品類約360点を、ご遺族及び関係各位のご厚意により、寄贈受入。

４月　日本図書館協会に加入

日本の図書館を指導支援する活動を行っている日本図書館協会に再加入。

７月　府内公共図書館間図書貸借業務を開始

京都府図書館等連絡協議会に加盟する図書館等との資料相互貸借を開始。同協議会加盟図書館との間で、相互に相手方の蔵書を閲覧利用できるようになった。

12月　「天眠文庫」資料の第２次寄贈を受ける

「天眠文庫」資料の第２次として、色紙や書簡など広範にわたる貴重な資料18,282点を寄贈受入。なお、昭和62年にも図書等491点を寄贈受入。

◇平成５年

４月　定例休館日を毎月第２水曜日に変更

毎月20日の定例休館日を、毎月第２水曜日に変更。

11月　開館30周年を迎える

開館30周年を記念して、「全国ふるさとの人形展」、「所蔵名品百選展」の展覧会のほか、11月７日(日)には前庭での各種催しや講演会、映画会などの「北山まつり」を開催。また『文書解題』などを記念出版。

▲北山まつり

◇平成６年

６月　特別資料室を開設し、吉田文庫を公開

当館が寄贈を受けた大規模な図書コレクションを配置する特別資料室を３階に新設し、吉田文庫と蜷川統計学文庫を配置。

◇平成９年

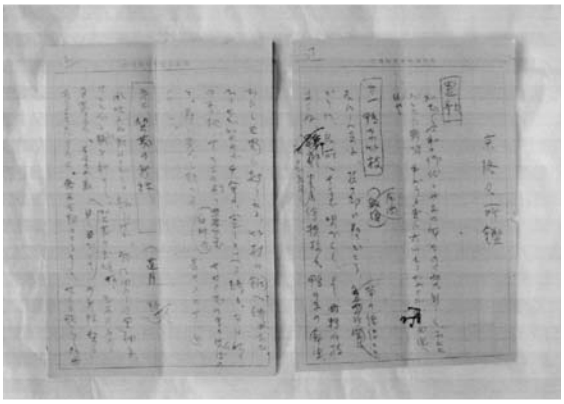
４月　貴重書のデジタル画像作成に資料提供

「社会教育施設情報化・活性化推進事業」によるデジタル画像作成のため、貴重書を資料提供。平成13年５月から「貴重書データベース」としてデジタル画像の閲覧が可能になる。

▲貴重書「あつもり」のデジタル画像

５月　「吉井勇資料」の寄贈を受ける

晩年京都に移り住み、短歌や戯曲、小説、随筆など多くの分野に作品を残した歌人・吉井勇に関する資料4,452点を寄贈受入。資料には、吉井の短歌等の作品をはじめ、谷崎潤一郎など、吉井と親交のあった多くの作家や画家、学者達からの手紙も含まれている。



▲吉井勇資料　原稿「京洛名所鑑」

６月　「東寺百合文書」が国宝に指定される

地方自治体が所蔵する古文書群としては初めて、国宝に指定される。

◇平成10年

３月　特許資料室を閉鎖

「京都府知的所有権センター」の開所により、当館での特許資料室業務を終了。

12月　閲覧可能古文書所在情報調査を開始

古文書センター推進事業の一環として、京都府域の近世の領主と村町別に閲覧が可能な関連文書の所在情報を調査し、また府内市町村と府内外の機関から情報の提供を受け、「京都府域関係古文書所在情報の一整理　近世領主並びに近世村町別閲覧可能関連文書一覧」として集約。平成15年３月に終了し、丹波、丹後、山城、京都（洛中洛外町続等）の地域別に『資料館紀要』（第27～31号）に掲載。

◇平成11年

４月　20世紀歴史資料保存事業開始

知事事務引継書のマイクロフィルム化及び複製資料の作成等を開始。平成13年３月に終了。

◇平成12年

４月　20世紀歴史資料整理事業開始

京都府の歴史を語る上での基本資料として、「府」、「市町村」、「民間団体等」の三つの分野の資料の保管方法などの現況調査を開始。

９月　「世紀をむすんでひらく展覧会」開催

20世紀の京都府の足跡を振り返り、新しい世紀への展望を開くため、京都府が開催した「世紀をむすんでひらく展覧会」の一環として、当館では、「京都の20世紀をさきがけた人々」展を開催。

▲「京都の20世紀をさきがけた人々」展

９月　特別資料室を閉鎖

10月　大閲覧室及び学習室を休室

府立図書館への図書資料の一部移管作業、館内施設整備等のため、10月１日から大閲覧

室及び学習室を休室。12月28日からは、文書閲覧室を含め全館休館に入る。

◇平成13年

３月　「京都府行政文書」が府指定有形文化財に指定される

５月　総合資料館が再開館

府立図書館への図書資料の一部移管作業、館内施設整備等を終了し、府立図書館の新築開館に合わせて５月11日から再開館。

文書閲覧室を４階から３階に移し、大閲覧室を図書閲覧室に改称したほか、図書検索や貴重書画像閲覧ができる端末を設置。また、再開館を記念して、「きょうと・歴史と文化の木曜講座」や「東寺百合文書展」、「馬の人形展」、「京の鳥瞰図絵師 吉田初三郎展」を開催。

▲「きょうと・歴史と文化の木曜講座」

７月　京都府図書館ネットワークシステムによる相互貸借実施

同システムに参加している府内図書館の所蔵資料の検索が可能になった。また、相互貸借やレファレンスの効率化が図られた。

10月　国立国会図書館総合目録ネットワークに参加

同システムにデータを提供し、全国の参加館のデータ検索が可能になった。

◇平成14年

５月　「総合資料館府民講座」を開始

従来の「文化講座」と「古文書教室」を再編し、「総合資料館府民講座」として開始。歴史や伝統文化、館蔵資料紹介等のテーマで年間８回開催。

６月　「京都府行政文書」が重要文化財に指定される

京都府立庁前年の慶応３(1867)年から昭和22(1947)年までの文書の一括指定。地方自治体が所有する行政文書としては、全国で初めての指定。

▲重要文化財「京都府行政文書」

７月　館ホームページを開設

利用案内や所蔵資料の概要、催し物情報等を掲載。

11月　「古文書解読講座」を開始

従来の「古文書講習会」と「古文書教室」を再編し、「古文書解読講座」として開始。初心者コースと一般コースを各２回開催。

12月　「京の文化振興プラン(その１)」策定

総合資料館が所蔵・保管している貴重資料の保存・活用策として取りまとめられたもので、同プランに基づき、平成15年度から「京の歴史・文化デジタル発信事業」、「京の貴重資料緊急保存活用事業」を開始。

◇平成15年

５月　「革嶋家文書」が重要文化財に指定される

▲重要文化財「革嶋家文書」

11月　開館40周年を迎える

開館40周年を記念して、「総合資料館名品展」などを開催するほか、『古文書つれづれ&明治の京都』などを発行予定。

府民講座のご案内

◆革嶋家文書展記念講座

平成15年10月21日(火)　午後２時～
「革嶋秀存と細川藤孝(幽斎)
－室町幕府の滅亡と山城国西岡地域－」
仁木宏氏（大阪市立大学大学院文学研究科助教授）

40周年記念連続講座「京の遊楽」

◆平成15年11月14日(金)　午後２時～
「近代京都の遊楽空間
－円山公園をめぐって－」
丸山宏氏（名城大学農学部教授、
京都大学人文科学研究所客員教授）

◆平成15年11月20日(木)　午後２時～
「写真家がみた歴史の風景
－京都の伝統文化と風物－」
横山健蔵氏（京都写真家協会会長）

◆平成15年11月28日(金)　午後２時～
「遊山のたのしみと『都名所図会』」
廣瀬千紗子氏（同志社女子大学現代社会学部教授）

◆平成15年12月４日(木)　午後１時～
「上方歌舞伎の再生と四百年の魅力
－仁左衛門歌舞伎から平成若衆歌舞伎へ－」
片岡秀太郎氏（歌舞伎役者）

☆　受講をご希望の方は、受講希望日、住所、氏名、電話番号を記入し、**３日前までに、はがき又はＦＡＸ**でお申し込みください。
＊満席で受講をお断りする場合のみ連絡します。
〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4
京都府立総合資料館　庶務課
TEL 075-723-4831 FAX 075-791-9466

第２回古文書解読講座のご案内

来年１月下旬から次の日程で開催する予定です。詳細は10月下旬頃決定し、11月上旬頃から受講申込を受け付ける予定ですので、ホームページ、ポスター、チラシ等でご確認のうえ、お申し込みください。

初心者	Ａコース	１月27日(火)～30日(金)
(各30人)	Ｂコース	２月３日(火)～６日(金)
一　般	Ａコース	２月17日(火)～20日(金)
(各80人)	Ｂコース	２月24日(火)～27日(金)

※いずれも13:30～16:00 資料館２階会議室
※テキスト代2,000円と郵送料が必要です。

収蔵展示室の一般公開

当館３階の収蔵展示室において、歴史・民俗資料等の一般公開を行います。
11月19日(水)～21日(金)
午前９時30分～午後４時30分　入場無料
問合せ先：京都府京都文化博物館学芸第一課
TEL 075-213-2893

友の会事務局から

文化の秋、展覧会の列品解説（友の会会員対象）やバスによる見学会のほか、開館40周年を記念して、秋の現地講座も予定しています。皆様のご参加をお待ちしています。

◆革嶋家文書展の列品解説
10月９日(木)、15日(水)　午後２時～
◆総合資料館名品展の列品解説
11月19日(水) 午後２時～
◆見学会
11月５日(水)、６日(木)の両日、八幡市において実施する予定です。
◆現地講座　11月中旬に実施予定
＊入会申込みは随時受け付けています。

日　誌（平成15年6月～8月）

6. 3(火)	府民講座（第９回）開催
6. 3(火)～ 5(木)	収蔵展示室の一般公開
6.10(火)	第162回古文書相談開催
6.24(火)	第163回古文書相談開催
6.27(金)	府民講座（第10回）開催
	第164回古文書相談開催
7.11(金)～8.12(火)	収蔵品展開催

利　用　案　内

休館日　祝日(日曜日の場合は、その翌日)、毎月第2水曜日、資料整理期(春季)、年末年始(12月28日～1月4日)

【10月～12月の休館日】
10月８日(水)、10月13日(祝)、11月３日(祝)、11月12日(水)、11月24日(祝)、12月10日(水)、12月23日(祝)、12月28日(日)～１月４日(日)

開館時間　午前9時～午後4時30分
交　　通　京都市地下鉄烏丸線･北山駅下車
市バス④、北８ 北山駅前下車
京都バス㉘、㊺、㊻　前萩町下車
ホームページ　http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/

発行　京都府立総合資料館　〒606-0823　京都市左京区下鴨半木町１の４
京都府立総合資料館友の会 (振替　01030-2-11991)　TEL(075)723-4831　FAX(075)791-9466

○本誌に関するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています